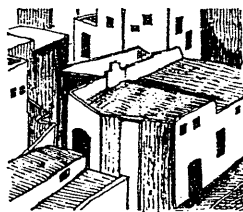


社会保障と全国的社会保険の 諸問題、基本原則および政策



Humberto A. Podetti

(アルゼンチン)

本稿には、アルゼンチンにある全国的な社会保障制度を設ける必要性について、幾つかの考察が示されている。

研究は5章に分れており、それらは現在における社会保障の重要性、社会保障と社会政策、社会保障の技術的な基本原則、社会保障の基礎的な基本原則、および全国的な社会保障制度を検討している。社会保障の改革と全国的な社会保険制度について、ある簡単な考察が行なわれており、次のような結論が示されている。

アルゼンチンの市民に対して、ある社会保障制度を設ける必要があり、その制度は包

括的な適用とある共通な管理・運営方式をもっているが、しかし、地域的に地方分権的な上級管理・運営機関をもち、関連を有する各部門にその機関への参加を求める規定が設けられることになる。上述した基本的な概要にもとづく制度の計画では、社会政策と経済計画の双方について、異なった社会的活動の方法を統合するために、規定が定められなければならない。しかし、制度の経済的および財政的な責任は、全般的な国民経済に依存している。社会保障は社会政策のある手段とみなされているので、個人もしくは世帯の生活水準に脅威を与えたり、あるいは低下させるある不慮の事故が発生した場合に、人びとを貧困の脅威から解放するように工夫された社会

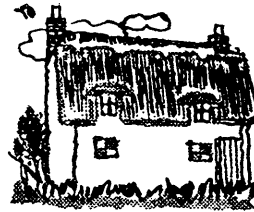
的連帯性と、個人および社会の責任にもとづく技術的および法律的な手順のある結合されたものとして、社会保障は考えられるべきである。社会政策の主要な目的は、各人の所得を保証することであり、また、適切な社会的サービスを提供することである。社会保障はこれらの目的を達成するある手段である。

アルゼンチンで用いられたその手段の分析は、次のようなものである。すなわち、この国の手段は、ある包括的な社会保障制度ではなかったが、そのようなある制度が、現在存在する各組織のある適切な統合によって、組織化することができるであろう。ある特殊な部分は、全国的な社会保険制度の研究に当てられており、その研究は社会保障の技術的な基本原則の観点から検討されている。管理・運営の統合は社会保険基金を幾つかのグループにまとめる方法では達成されないであろう。また、連邦政府の首都に、退職と年金の各制度の管理・運営を集めることは、望ましくないであろう。

特殊な不慮の事故はカバーされてきたが、しかし、全国的な制度は包括的な社会保障制度の方向を目指す基礎的な基本原則も、あるいは技術的な基本原則をも、条件を満たしていないということが認められている。

Los problemas, principios y políticas de la seguridad social y el régimen nacional de previsión social, *Jurisprudencia Argentina*, 17 March 1970, pp. 2—11; No. 2, '71.

社会的手当の改革



E. Harangozo

(ハンガリー)

本稿には、現行制度について若干の詳述を加えながら、重要な改正が述べられており、また、社会福祉諸給付の将来にかんする幾つかの考え方が示されている。

1944年の解放以前には、諸給付は範囲が限られており、また、各種の給付制度は統一的でなかった。したがって、最初の仕事は制度を統一することであった。これは徐々に達成

され、より高い給付水準に達している。制度を改革する過程における主要な特長と諸要素は、次に示されるとおりであった。

諸給付の適用範囲は、拡大されなければならない。

被用者数は増大し、とくに、その増加は女子の被用者にいちじるしいので、支給を

認められる給付の範囲は拡大されなければならないし、しかも、各給付の制度は、子女を養育する世帯を保護するように、再編成されるべきである。

寿命が長くなるので、その結果、老齢年金の受給者数と保健サービスの需要が増大することになった。

上昇する賃金およびより長くなる雇用期間が、自動的により高い諸給付を用意させることになった。

工業と農業が双方とも成長するにつれて、保護される人びとの数は、事実上全人口をカバーするようになってきた。

以上の変化による結果として、社会福祉支出の増大は国民所得よりもより早くなってしまった。社会福祉諸給付から生み出される個人所得の割合は、1950年の18%に対して、1960年には21%となり、また1970年には24%となっている。